

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
幼小中連携 中学校ブロック保	点から面につながるブロック連携	<ul style="list-style-type: none"> ・連携担当者のほかに連携が必要な担当を検討する。 ・無理のない範囲で月1回の連携担当者会を計画、実行する。 ・合同授業研で、連携カリキュラムを使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校ブロックとしての連携組織をつくる。 ・連携カリキュラムの見直し、修正について検討する。 ・連携担当者以外の担当者会を1回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種担当者会を定期的に行う。 ・連携カリキュラムを活用した取り組みを実施する。
確かな学力の育成	学びに向かう力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動において、興味や関心を持つことができるような取り組みの検討、実践。 ・モジュール学習の計画立案。 ・ICT機器を効果的に活用し、興味関心を引き出し、子どもたちの学習意欲向上を図る。 ・算数の授業では問題解決型学習の授業づくりの具体化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動において、表現し、伝え合うための技能の習得。 ・モジュール学習の推進 ・算数の授業では問題解決型学習を通して、課題を見つけ、解決しようとする態度の育成。 ・ICT機器を活用しながら「主体的・対話的な学び」の授業づくりの推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動において、目的や場面に応じて、表現し伝え合うコミュニケーション力の育成。 ・モジュール学習の定着 ・算数の授業では問題解決型学習の授業を通して、課題を見つけ、解決しようとする態度の育成。 ・ICT機器を活用しながら全教科を通じて「主体的・対話的な学び」の授業づくりの推進。
豊かな人間性を育む	一人ひとりを大切に、共に学び、支えあう集団を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究、実践の記録、交流、教職員の研修などを通して、全教職員の統一、実践力の向上を図る。 ・弱い立場の子、支援を要する子に視点をあてた集団づくりを進める。 ・「畑田小だより」「畑田小アンケート結果」や学年、学級通信で、家庭や地域とともに児童の豊かな人間性を育むよう啓発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が一致協力した児童指導体制のもと、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援を行う。 ・男女共生教育を柱にすえ、困り感のある子、支援を要する子に視点をあて、違いを認め合う集団づくりを進める。 ・学校、地域、家庭が連携を図り、「正しく判断し、みんなで助け合い、学び合う」子どもの育成の啓発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の実践力の向上を目指し、人権教育・道徳教育についての研究を進める。 ・一人ひとりの違いを認め合い、すべての子どもの人権が尊重され、共に学び、共に育つことができる集団づくりを進める。 ・よりよい社会を育むことを自ら創造していく子どもの育成を念頭に、学校、家庭、地域が一体となった教育活動の啓発を進める。
健康・体力の増進	「運動が好き」「授業が楽しい」と思える子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・立命館大学と連携した「授業プログラム」のもと、授業改善や授業力向上を推進し、子どもの体力向上、運動への意識向上を図る。 ・運動の楽しさや喜びを味わうための授業、取り組みを進める。 ・健康や安全についての興味関心を持つ態度の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業プログラム」の検証を行い、より良い授業づくりについての研究を推進する。 ・運動や健康について、友だちとの対話を通じて、課題の解決を目指す態度の育成。 ・生涯にわたって、健康・体力の増進に興味・関心を持つ態度の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの研究をもとに、児童の実態に応じた、系統性のある「畑田小体育カリキュラム」を作成する。 ・運動や健康についての課題を自ら発見し、解決に向けて、思考・判断し、伝える力の育成。 ・生涯にわたって、健康・体力の増進に意欲的に取り組む態度の育成。
支 援 教 育 の 充 実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------|-------------|
| ①話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ②書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③読むこと | 概ね良好な結果であった |
| ④言語事項 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに関しては良好な結果であった。
- ・漢字を分の中で正しく使うことに課題が残る。
- ・図表やグラフを用いた目的を捉えることに関しては無解答率が低い。
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題に対しての無解答率が高い。

分析

- ・同音異義語の漢字の書き取りの問題での課題が見られた。
- ・読む能力に関する正答率が高い。
- ・接続語を使つての書き換えや、自分の考えをまとめるなど、記述の問題に関して課題がある。
- ・高学年で委員会・クラブのない日に設定しているパワーアップタイムで、全国学テの過去問や記述式問題などに取り組む時間を設け、学習時間を確保している。
- ・モジュール学習の時間を昼に設定することで、朝学習の時間をしっかり確保することができている。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|-------|-------------|
| ①数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②量と測定 | 概ね良好な結果であった |
| ③図形 | 概ね良好な結果であった |
| ④数量関係 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・示された計算の仕方を解釈し、除法の計算の仕方について記述する問題については、正答率が低く、無解答率が高い。
- ・図形の特徴をとらえ、条件に合う図形を選択する問題やグラフから特徴を読み取る問題では、正答率が高く、無解答率は低かった。

分析

- ・全体的に概ね良好な結果であった。
- ・計算の仕方や、グラフから読み取ったことに関して記述するなどの問題についての正答率が低い。
- ・文章や示された図から数量や状況を読み取り解答する問題に関しての正答率が低いことから、問題文の読み取りに課題が見られる。
- ・高学年で委員会・クラブのない日に設定しているパワーアップタイムで、全国学テの過去問や記述式問題などに取り組む時間を設け、学習時間を確保している。
- ・モジュール学習の時間を昼に設定することで、朝学習の時間をしっかり確保することができている。
- ・毎週水曜日の朝の「算数タイム」や授業始めの「さんすうあたま」の時間を設け、計算の基礎基本的な力の定着を図っている。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

- ・国語の漢字の書き取りに課題がある。
 - ・国語の無解答率は減少したが、算数の無解答率は若干増加した。
 - ・無解答率の平均が全国平均より若干多い。
 - ・国語算数ともに、二極化は見られず、低中高位層にほとんど差が無い。
- ⇒例年、記述式問題に無解答率が高い傾向にある。授業や取組みに対してのふりかえりや自分の考えをまとめること等で、「書く」活動に慣れていない様子が見られる。そのような活動を意識的に取り入れていく必要がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・学力高位層と低位層共に約3ポイント、EP層が約4ポイント減少しており、高位層と低位層の差がほぼ無く、中位層が1ポイント増加している。
 - ・EP層が昨年度より約8ポイント減少しており、調査開始からも一番減少している。
- ⇒これまでの学習の取組みで基礎基本的な力の定着につながっている。
(朝学習、算数タイム、PTの確保等)

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

国語

- ・記述力を伸ばすために、自分の考えを書いたり、まとめたりする学習活動を取り入れる。
- ・朝の読書タイムや授業での読書時間を確保し、じっくり落ち着いて文脈を理解する力を伸ばしていく。
- ・読書活動と並行して、多くの文章に触れる活動を意図的に増やすことで、字に触れる機会を多く取り入れる。
- ・自分の考えを発表したり、交流したりする時間を設定することで、話し手の意図を読み取る力を伸ばしていく。

算数

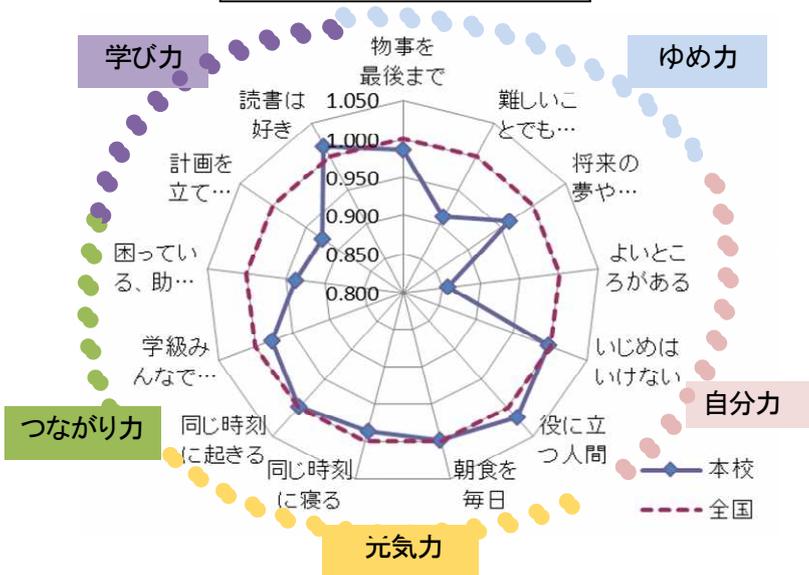
- ・問題解決型学習に力を入れ、自分で考え、言葉や式で説明できる力を伸ばしていく。
- ・課題の導入を工夫し、児童の興味関心、学習意欲を持つことができるようにする。
- ・図形やグラフの特徴を読み取る問題や文章題に多くふれ、苦手意識を減らすようにしていく。
- ・朝の算数タイムを継続して、基礎的な計算力の向上と課題に挙げた問題にも触れることができるように進めていく。

全校での取組み

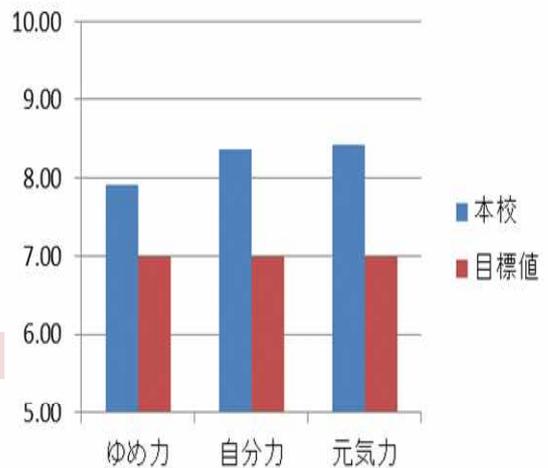
- ・朝の読書活動の時間を継続し、読解力と漢字力を伸ばしていく。
- ・高学年は、委員会・クラブのない6時間目を利用するパワーアップタイムを実施し、過去の全国学テ（主に記述式問題）に取り組むことで、国語・算数両教科で課題である記述に対しての苦手意識を減らし、記述力を伸ばしていく。
- ・授業スタンダードの見直し、児童の実態に即した取組みにしている。
- ・教科の理解度を見る到達度チェックを行い、取組みに生かしている。
- ・授業や行事などの取組みに対して、ふり返しを行い、学んだことや、気づいたことをまとめて書くことで書く力や考える力を伸ばしていく。
- ・モジュールタイムや朝学習の時間（短時間で集中することを意識する）を利用し、「ことばのちから」「力だめしプリント」「理科定着プリント」に積極的に取り組み、各領域の力を伸ばしていく。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

- ・全体的に全国平均を下回っている項目が多い。
- ・自ら計画を立てて学習することや復習や予習など、宿題以外の学習習慣の定着に課題がある。
- ・「人の役に立ちたい」という思いは持っているが、自ら声をかけ、困っている人を助けることができない児童が多い。
- ・自分に自信を持つことができない児童が多いことから、「難しいことに挑戦する」ことが難しい。
- ・自分に課題となるようなことがあった時に、すぐにあきらめてしまう傾向がある。
- ・「自分には良いところがある」という質問に対して、全国平均を大幅に下回っており、自己有用感・自己肯定感が持つことができない。
- ・将来の夢や目標を持つ児童が全国に比べ少ない。

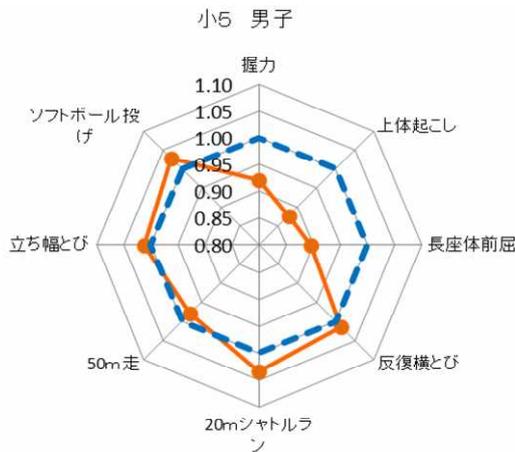
取組み

- ・意欲をもって、自らどのように解決していくか、見通しをもって学べるような課題の提示を工夫する。
- ・計画的に取り組むことができる家庭学習を提示し、保護者にも協力をお願いする。
- ・共に学び、共に育つという意識の向上を図り、人とのつながりが持てるような集団づくりを強化することで、自己有用感・自己肯定感を高めることができるように、お互いを認め合い、達成感や満足感を感じることができるような取組みを設定する。(ペア学年での交流や取組み)
- ・キャリア教育の充実を図る。
⇒出前授業や授業での取組みを通して、自分の生き方を考えたり、多様な生き方や価値観に触れたりする機会を設けることで、将来への見通しや何事にも挑戦し、粘り強く取り組む心情を育む。

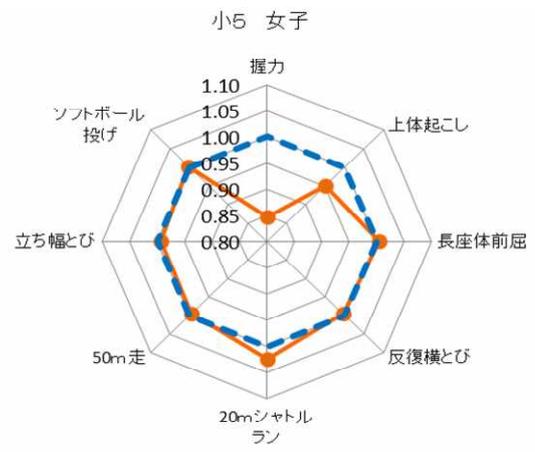
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

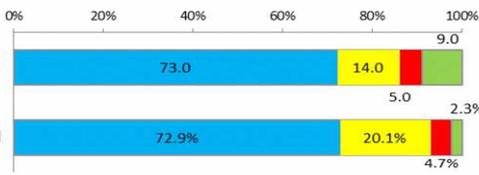
男子 (小5)



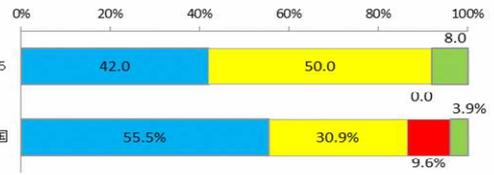
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ・ソフトボール投げ・立幅跳び・20m シャトルラン・反復横跳びは全国平均を上回っている。
- ・5年生男子においては握力、上体起こし、長座体前屈が極めて低く、5年生女子においては握力が極めて低い。
- ・運動部、スポーツクラブに所属している児童が約80%をしめている。
- ・運動やスポーツを大切だと感じている児童が多く、運動に対しても好意的な児童も多い。ただ、女子は7%運動が嫌いだと回答している。
- ・運動に対して自信がない児童が10%以上いる。
- ・1日のケータイ・スマホも時間を守れている。ただ女子に1日に2時間以上使っている児童が13%いる。
- ・体育は楽しいと感じている児童が大半だが、女子は約四分の一が楽しくない、もしくはあまり楽しくないと感じている。
- ・体育で運動のコツをつかめているかの問いに対して、あまりつかめていない、つかめていないが男子・女子ともに四分の一を占めている。

取組み

- ・昨年度より実践している立命館のプログラムに関して、一定の結果が出ているので、今年度も各学年の課題に応じて、授業に活用していく。(特に、50m走・立幅跳びが課題)
- ・低学年は実態に応じて、プログラムの実践を図り、様々な運動に取り組む。
- ・研修の積極的な参加や情報の共有を図り、体育の授業力の向上を目指す。また、校内でも積極的に研修を行う。
- ・授業以外でも体を動かす取組みを推進し、体を動かす楽しさ・経験を積めるようにしていく。
- ・保健の授業を通して、テレビやスマホの使用に係る睡眠の大切さなどについてアプローチをしていく。